

めざす未来に向けた価値創造の戦略～「J」R西日本グループ中期経営計画2022～

現状認識と進捗

▶ JR西日本グループ中期経営計画2022 <https://www.westjr.co.jp/company/info/plan/>

中計見直しの背景と方向性

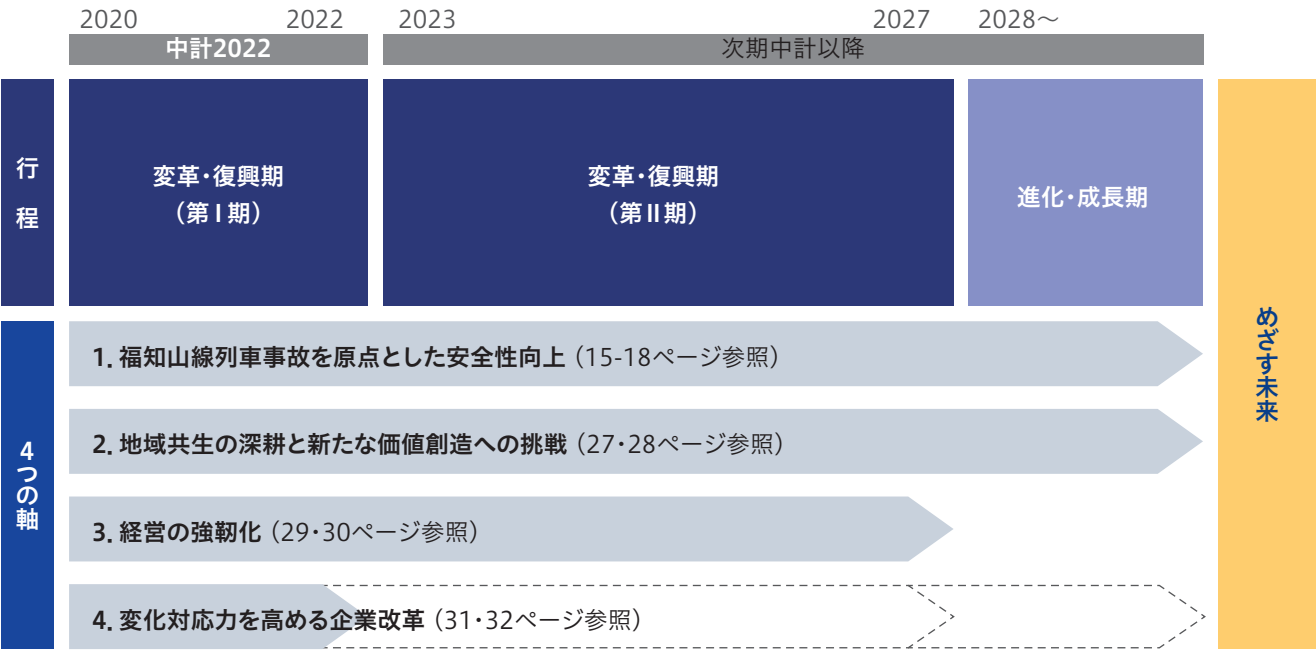
新型コロナウイルス感染症の拡大により、当社グループは、鉄道・創造事業とも大きな影響を受けています。激変する外部環境の中でも、「めざす未来～ありたい姿」の実現に向けて、

●環境変化と戦略の方向性

環境変化と前提

見直しの方向性

中長期的な財務基盤の回復、社会変化をとらえた変革、安全と成長への道筋を示すべく、2020年10月に「JR西日本グループ中期経営計画（以下、中計）2022」の見直しを行いました。



●経営指標

経営指標	2017年度実績	2022年度目標 (2018年4月公表時)	2022年度目標 (2020年10月見直し)	2020年度実績
連結営業収益※	1兆5,004億円	1兆6,300億円	1兆4,500億円	8,981億円
連結EBITDA	3,561億円	4,000億円	3,300億円	▲708億円
連結ROA	6.3%	6%台半ば	4%程度	－
[参考]連結ROE	11.3%	10%程度	9%程度	－
運輸収入※	8,678億円	8,900億円	7,750億円	4,194億円

※「収益認識に関する会計基準等」の適用による影響は加味していません

事業別進捗

2020年度は年間を通じてご利用回復は見通せない状況で推移しました。

2021年度についても、第1四半期実績の反映に加え、コロナ影響の長期化を踏まえ、基幹である運輸収入の回復局面の時期を見直すなどした結果、通期計画を期首想定から下方修正しました。ワクチン接種とその後の行動制限解除の見通しはいまだ不透明であるため、幅を持たせた想定としています。

当初想定していた回復の時期こそ遅れるものの、中計見直しで掲げた構造改革をはじめとした取り組みを着実に進めるとともに、今後の成長機会を逸することなく、歩みを進めます。

鉄道事業

最重要課題である鉄道の安全については、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」を着実に推進しています。また、新型コロナウイルス感染症の対応として、より安心してご利用いただけるよう、「リアルタイム混雑状況提供サービス」を大阪環状線などで2021年6月から新たに開始しています。

安全・安心に十分留意しつつ、需要回復に向け、新幹線では輸送サービスのさらなるブラッシュアップとして、N700Sの導入やEXサービスの機能拡充を進めています。また、来るべき需要回復に備え、合同会社ユー・エス・ジェイ(USJ)や日本航空株式会社、株式会社星野リゾートなど他社との連携も強化しています。



流通業

2021年3月に、新大阪駅改札外にテイクアウトやフードコートを中心とした「エキマルシェ新大阪 Sotoe」を開業しました。新大阪駅を日常的に利用される通勤・通学のお客様が利用しやすい施設を目指しています。

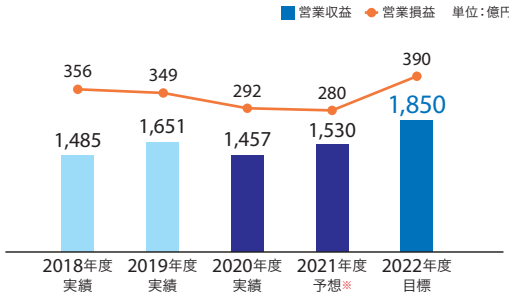
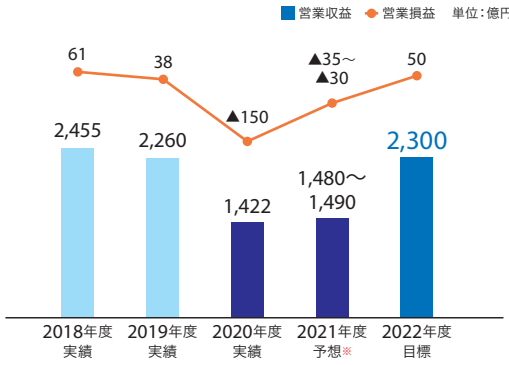
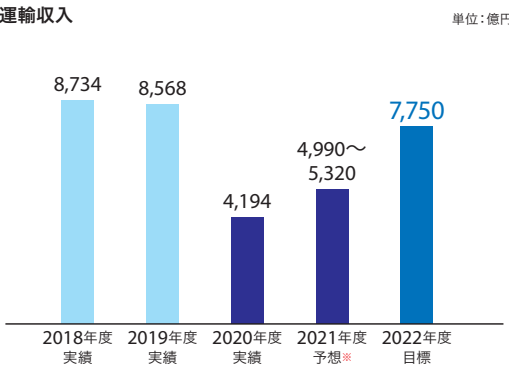
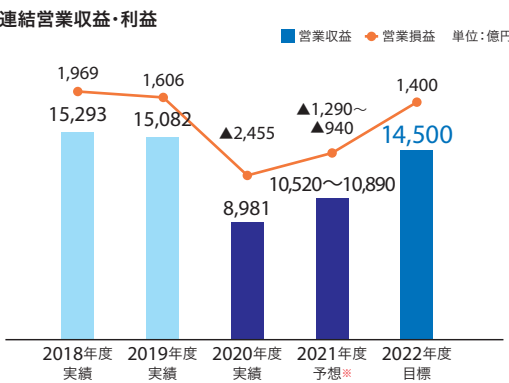
また、「エキマルシェ大阪」においても、開業以来初の大規模リニューアルを行い、第Ⅰ期が10月に開業します。新しい生活様式を意識した「食品」のバリエーション強化、館内動線や店舗配置の改善を行い、日々のご利用に便利な施設としていきます。



不動産業

不動産賃貸・販売業では、2021年3月に私募ファンド1号を設立しました。将来的な私募REIT組成を視野に、段階的に資産規模を拡大させていきます。また、ショッピングセンター運営業では、市中展開のショッピングセンターとして3店舗目となる「夙川グリーンプレイス」を9月に開業しました。

引き続き、事業スキームの多様化を図りながらまちづくりの機会を獲得し、グループ全体の収益拡大と資産効率向上を図っていきます。



※ 2021年度予想は「収益認識に関する会計基準等」を適用しています。